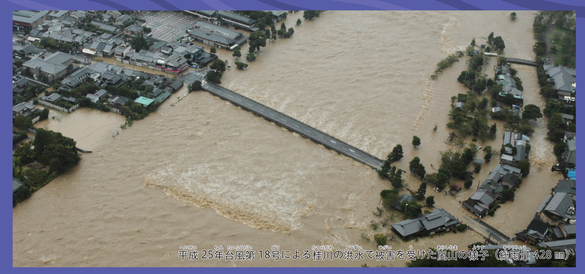
保存版

このハザードマップは令和 8年に改定して新しくなりました！

京都市 CITY OF KYOTO

京都市 伏見区東部

洪水 ハザードマップ



平成 29年台風第 18号による桂川の洪水で被害を受けた嵐山の様子（浸水深：約 2.8 m）

京都市洪水ハザードマップについて

「京都市洪水ハザードマップ」は、予想される最も強い雨で市内の川があふれた場合の浸水範囲や深さなどをまとめたものです。

このハザードマップは、大きい河川だけではなく小さい河川の情報も書いています。

このハザードマップは、河川の洪水に対して、皆様に日頃からの備えや安全な避難行動をとっていただくためのものです。

京都市洪水ハザードマップの使い方

（1）水害について知り、身の周りの浸水する場所や、いざという時の避難先や取るべき行動を確認しましょう。

（2）防災についての情報を知り、水害が発生した時に取るべき避難行動や心構えを確認しましょう。

（3）水害に対して日頃からできる備えについて知りましょう。

※ハザードマップで対象とする河川の種類

洪水予報河川	洪水により国民や経済に重大な損害が生じるおそれがあるとして指定された河川であり、大雨のときには洪水予報が発表されます。京都市では、宇治川・桂川・木津川・鴨川・高野川が洪水予報河川です。
水位周知河川	洪水予報河川以外で、洪水により、国民や経済に重大な損害が生じるおそれがある河川です。大雨のときには、特別警戒水位の到達を通知・周知します。
その他の河川	上の２つ以外の小さい川が多いですが、短時間の大雨でも洪水・浸水被害が生じることがあります。

●地図についてのお問い合わせ
京都市行財政局防災危機管理室 TEL 075-222-3210

●避難場所についてのお問い合わせ
伏見区役所地域力推進室（総務・防災担当）TEL 075-611-1295
深草支所地域力推進室（総務・防災担当）TEL 075-642-3125
醍醐支所地域力推進室（総務・防災担当）TEL 075-571-6105

発行：令和 8年 6月／ 京都市行財政局防災危機管理室
京都市印刷物　第 080581号

水害について知ろう

水害には、この洪水ハザードマップで取り扱う「洪水（外水氾濫）」と「内水氾濫」の 2 種類があり、この 2 つは、水害が起きる場所や仕組みが違います。2 つの水害を知ることで、日頃の備えや水害発生時の正しい避難行動につなげましょう。

内水氾濫がおきるしくみ

内水氾濫は、大雨が降った時に、下水道などから水があふれて浸水する水害です。**短時間であっても強い雨**が降ったときなどに発生しやすいです。特に水路の近くや、**アンダーパスなどの周りよりも低い場所、地下街**は内水氾濫が起きやすい場所です。

内水ハザードマップも確認しよう！

強い雨が降ると、下水道から水があふれたり、その水が地上にとどまったりします。

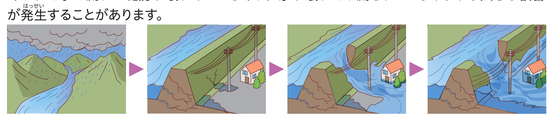
平常時の雨は、下水道などを通って川に流れます。

大雨で川の水位が上がり、排水されにくくなると、下水道などから水があふれます。

さらに大雨が続くと洪水（外水氾濫）の危険が高まります

洪水（外水氾濫）がおきるしくみ

洪水（外水氾濫）は、大雨で川の水があふれて流れ出し、川の外側で浸水がおきる水害です。あふれた水の流れで堤防が壊れることもあり、家が壊れたり流されてしまうような大きな被害が発生することがあります。



大雨により川の水位が上がり始めます。

水位が上がると、堤防にかかる水の力が強くなります。

水の力に堤防が耐えられなくなると、堤防が壊れ始めます。

壊れた箇所から、水が勢いよく流れ出し被害が発生します。

大雨が降り続くと、内水氾濫と洪水（外水氾濫）がどちらも発生することがあります。一般的に洪水（外水氾濫）の方が浸水の被害が大きいため、**内水氾濫だけを考えて避難すると、洪水が発生した時に安全に避難できない**おそれがあります。また、大雨の際には土砂災害が起きやすくなるので、身の周りや避難経路上にある土砂災害警戒区域にも注意しましょう。

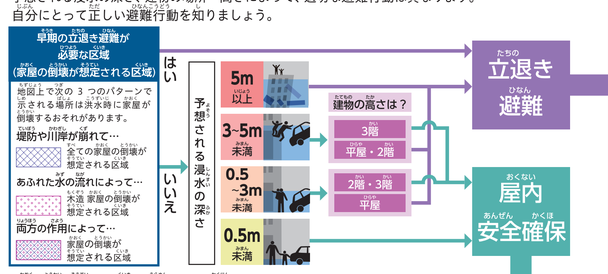
水害リスクと避難行動を確認しよう

水害リスクと避難場所の確認

- このハザードマップを使って、自宅や身の周りの浸水の深さや範囲、正しい避難行動を確認しましょう。
- 安全な避難場所や、避難場所への避難経路を確認しましょう。避難場所は、一つだけでなくいくつか知っておくと避難の安全性が高まります。
- 水害の状況により、市が発令する避難情報や、開設される避難場所は違います。避難する前に、市のホームページなどで状況を確認しましょう。

適切な避難行動を確認

予想される浸水の深さ、建物の場所・高さによって、適切な避難行動は異なります。自分にとって正しい避難行動を知りましょう。



※家屋の倒壊が想定される区域は、裏面のマップで確認してください。

浸水の危険性が高い場所を避ける

低い場所への浸水

高架下を通るアンダーパスは、大雨時に水が溜まりやすく危険です。裏面の地図には、アンダーパスなどの水が溜まりやすい危険な場所を示しています。

地下への浸水

地下は外の様子が確認しづらいので危険です。また、地上から水が流れ落ちてきたり、停電や水圧でドアが開かなくなることがあります。避難する時は、地下を通らないようにしましょう。

市のHPで、市内の地下施設の一覧を確認できます。
京都市　避難確保・浸水防止

屋内安全確保（垂直避難）

浸水の深さが浅い場合は、建物の上階に避難する方が安全なことがあります。

裏面のマップで身の周りがどのくらいの深さで 浸水するかを確認しましょう。

浸水深がひざ下より低くても、水の流れが速いと歩きにくくなります。無理に外に出ないで、今いる建物の上の階に垂直避難しましょう。なお、平屋の場合は、早い段階で近くの高く頑丈な建物等に避難しましょう。

2階以上へ 垂直避難

どこに立退き避難するかを確認しよう

- 裏面のマップを見て、身の周りの近くにある避難場所や、水害の危険性の低い場所を確認しましょう。
- 川が氾濫して浸水が発生する前に、市が指定する避難場所や、浸水の危険性がない場所、もしくは近くの高い建物に避難しましょう。
- 立退き避難する時に、すでに内水氾濫が発生しているかもしれないので、内水ハザードマップもあわせて見て、安全な避難経路を前もって確かめておきましょう。

お住まいの学区の緊急避難場所

水害と土砂災害の危険性の低い地域の親戚、友人宅など安全な場所

避難場所の開設状況は市の HP などで確認しましょう
→［防災・気象情報を調べよう］を参照

自分の避難先をメモしよう

お住まいの学区の緊急避難場所
○○小学校
水害と土砂災害の危険性の低い地域の親戚、友人宅など安全な場所　記入欄

安全に避難するために心がけること

1. 浸水が始まる前に避難をしよう

2. 川や橋には近づかない！

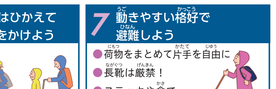
3. 側溝やマンホールには注意！

4. 車での避難はひかえよう！

5. 高齢者や障がいのある方などの避難の手助けを！

6. 1人での避難はひかえて周囲の人に声をかけよう

7. 動きやすい格好で避難しよう
- 荷物をまとめて片手を自由に
- 長靴は厳禁！
- ステッキや傘で足元を確認



避難情報と住民がとるべき行動

洪水の危険性が高まった地域には避難情報が出ます。その地域にいる人は、早めに避難しましょう。一方で、局地的な大雨や突発的な土砂災害の場合には、避難情報が出ない場合もあります。避難情報がなくても普段の雨と違うと感じたら早めに身の安全を守る行動をとりましょう。

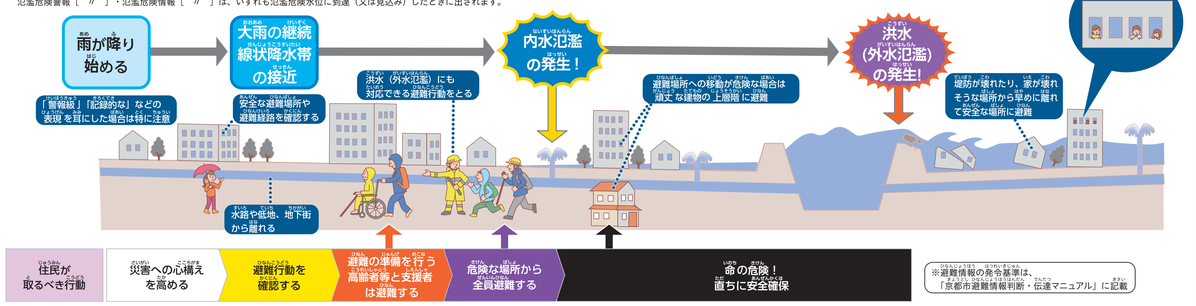
また、避難情報は警戒レベルの順番通りに出るとは限らないので注意してください。情報等を待っているだけでは、いつのまにか状況が悪くなり、避難のタイミングを逃してしまうおそれがあります。自ら気象情報や周りの状況に注意し、行動するよう心がけましょう。

警戒レベル	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4	レベル 5
状況	今後、気象悪化のおそれ	気象状況の悪化	災害のおそれあり	災害のおそれ高い	災害発生または切迫した状況
チェックすべき情報	天気予報 雨雲の動き 早期注意情報	大雨注意報 氾濫注意報 （氾濫注意情報）	大雨警報 氾濫警報 （氾濫警戒情報） 高齢者等避難	大雨危険警報 氾濫危険警報 （氾濫危険情報） 避難指示	大雨特別警報 氾濫特別警報 緊急安全確保

※氾濫注意報［洪水予報河川］・氾濫注意情報［水位周知河川］は、いずれも氾濫注意水位に到達したときに出されます。
氾濫警報［　〃　］・氾濫警戒情報［　〃　］は、いずれも避難判断水位に到達（又は見込み）したときに出されます。
氾濫危険警報［　〃　］・氾濫危険情報［　〃　］は、いずれも氾濫危険水位に到達（又は見込み）したときに出されます。

市内の要配慮者利用施設

市の HP で、市内の要配慮者利用施設の一覧を確認できます
京都市　避難確保・浸水防止



住民が取るべき行動	災害への心構えを高める	避難行動を確認する	避難の準備を行う 高齢者等と支援者は避難する	危険な場所から全員避難する	命の危険！ 直ちに安全確保

※避難情報の発令基準は、「京都市避難情報判断・伝達マニュアル」に記載

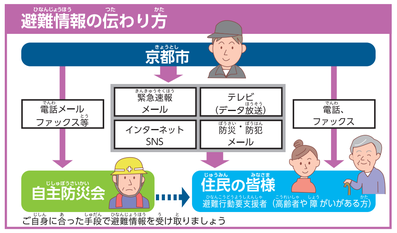
マイ・タイムラインを作ろう

災害時に、自分が**何をするかを事前に決めておいたもの**が**「マイ・タイムライン」**です。

- いつ起こるかわからない水害に備えて、マイ・タイムラインを作っておくと、逃げ遅れを防いで、ご自身や家族を守ることにつながります。
- 市では皆様のマイ・タイムライン作成を支援するページを公開しています。ぜひアクセスしてください！

京都市マイ・タイムライン

避難情報の伝わり方



ご自身に合った手段で避難情報を受け取りましょう

避難のタイミングを逃したら

避難場所でなくても、近くの高くて頑丈な建物に避難しましょう

自宅の 2階以上で斜面から離れた部屋に避難しましょう

防災・気象情報を調べよう

防災・気象情報は、国や京都府、市役所から発信されます。これらの情報には、配信された情報を受け取るプッシュ型と、自分で調べるプル型があります。状況に合った情報収集を確認しましょう。

配信情報を受け取る（プッシュ型）

緊急速報メール
防災情報が携帯電話に届きます。

防災・防犯情報メール（京都府）
防災情報などをメールでお知らせします。利用するためには事前登録が必要です。

自分から調べる（プル型）

京都市防災ポータルサイト
ハザードマップや防災情報のほか普段から役立つ情報を見ることができます。

京都市防災ポータルサイト
X（旧 Twitter）のアカウントです
フォローすることで、防災情報を見ることができます。

京都府河川防災情報
京都府域の河川水位や雨量、洪水予測、河川カメラ映像を見ることができます。

京都市の防災気象情報（気象庁）
市内の警報・注意報や、雨雲の動き、雨量などを見ることができます。

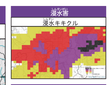
洪水キキクル（気象庁）
大雨による洪水発生の危険度を知ることができます。

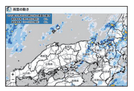
テレビやラジオを視聴する
テレビで d ボタンをおすと、防災・気象情報を見ることができます。

情報収集で避難行動の安全性を高めよう

線状降水帯による集中豪雨など、**予測が難しい大雨によって発生する内水氾濫や小さい河川の洪水**が増えています。こうした水害では、これまでと同じ情報収集だけでは避難が間に合わないことがあります。**キキクルや雨雲レーダー、河川カメラ**の情報を活用して、命を守るための避難行動をとりましょう。（洪水氾濫の場合は、洪水キキクルを見てください。）

キキクルでは浸水害と土砂災害の危険度も確認できます。





雨雲レーダーでは、線状降水帯の動きを確認できます。

河川カメラでは、大きい河川のほか、小さい河川の様子も確認できます。

日頃から備えよう

避難時に持っていく物と備蓄の確認

- 避難時に持っていく物は、日頃から準備してすぐに持ち出せるようにしましょう。
- 持っていくものは、必要なものだけを選び、1 つのリュックサックにまとめましょう。
- 家の中で避難する場合に備えて、食料品や飲料水などは普段から多めに用意して、日頃から使いながら買い足すことで、いつでも利用できるようにしておきましょう。

避難時に持っていく物と備蓄品のチェックリスト

備蓄品リスト（一般）	□ 飲料水 1人1日3リットル目安	□ 食料品（　　日分）	□ 携帯トイレ（凝固剤等）	□ トイレットペーパー	
	□ 主食 おにぎり、パン、カップ麺など	□ 簡易炊飯用鍋（カンパン等）	□ 手袋の装着用チューブ	□ 毛布やブランケット	
	□ 主食 レトルト食品や缶詰など	□ 水筒・予備	□ 鍋おむつ	□ 携帯トイレ（凝固剤等）	
	□ 副食 梅干し、のり、日持ちする果物など	□ 常備薬（頭痛薬・殺菌等）	□ 尿取りパッド	□	
	□ 主食 麺類（カップ麺）	□ 使い捨て手袋	□	□	
	□ その他（菓子類） チョコレートやビスケット、飴など	□ 携帯電話	□ ラジオ	□ アルコール綿	□
		□ 電池（1種）	□ ウエットタオル	□	
		□ 延長コード	□ ドライシャンプー	□	
備蓄品リスト（個別）	□ 常用薬	□ 冬期暖房用石油缶	□ 口腔ケア用品	□	
	□ 栄養補助食品	□	□	□	
	□ 保育器	□	□	□	
	□	□	□	□	
	□	□	□	□	

災害時非常持ち出し品リスト

※リストの内容は一般的な例です。自分が必要とする備蓄品や災害時に持ち出す物をあらかじめ考え、備えておきましょう。
※食料品は最低でも 3 日分、できれば 1 週間分程度を備蓄しましょう。
※災害時非常持ち出し品は、あわてず持ち出せるように、あらかじめリュック等にまとめておきましょう。

浸水への備え

身の周りの対策で被害を防ぐ

側溝などをきれいにして、ゴミや葉で詰まらないようにしましょう。また、ふたの上にブロックなどの物を置かないようにしましょう。

まるごとまちごとハザードマップを探してみよう

「まるごとまちごとハザードマップ」は街中の電柱や建物に、どこまで水がくるか知らせる看板です。街を歩くときに探してみてください。WEB版のハザードマップでも見られます。

避難訓練に参加する

京都市では、市役所と市民が一緒に参加する防災訓練がおこなわれています。訓練に参加して、防災意識を高めましょう。

地域で助け合う（共助）

お年寄りや体の不自由な人、幼い子供、妊娠している人、外国の人には、周りの人が声をかけて、安全確認や避難行動で助け合いましょう。